

特許紹介

第25巻第1號 昭和14年1月

堅坑掘鑿方法

(特許第126811號 特許権者(發明者) 木山保造)

此の發明は特許第 107308 號の追加發明である。波狀飯 (1) と鑿刃 (4) とを交互に組合せて構成した井筒子 (2) を堅坑中に下降し井筒子の下部を開張し乍ら鑿刃の剪斷力によつて地下に下降し、内部の土砂を掘鑿し適當深度で外周地層に定着し、次いで前層井筒子より更に大徑に開張し得る次層井筒子を堅坑内に下降して井筒子の下方を前層のものより更に開張し乍ら地下に下降し、以下順次前記工法に倣ひて堅坑を掘鑿する方法で、原發明に比し井筒子の波狀飯に鑿刃を交互に配して井筒子の剪斷力を強化した點を改良點とする (圖-1, 2)。 圖-1.

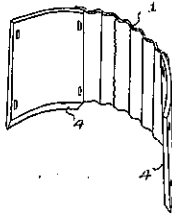
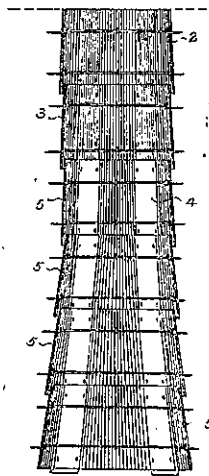


圖-2.

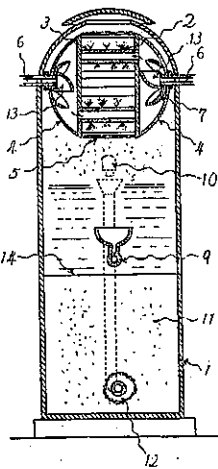


浄水装置

(特許第 126865 號 特許権者(發明者) 佐久間通男)

此の發明は回転噴霧器の作用により被浄化水を打碎いて之を極めて微細とし空氣接觸の機會を多からしめたもので、その機構は次の如くである。濾過器(1)の上部兩端又は其の一端に水動錐 (4) を設けて多角度に水を噴射すべく數多の噴霧口 (2) を穿つた管 (3) を多數配置し、其の外側を金網 (5) で圍繞し、且つ錐の内側には多數の屏 (7) を設けて回転噴霧器と成し、噴霧器は其の中央を中心とし圧力水源

圖-3.



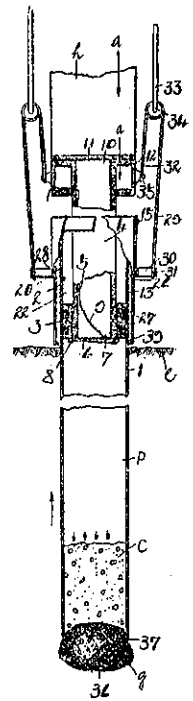
に連絡すべき高圧水管 (6) に挿入した肘管 (13) より放射する水勢により自動的に回転して噴霧口から被浄化水を噴出せしむるやうにしたものである (圖-3)。

テニスコート築造方法

(特許第 126896 號 特許権者(發明者) 岡 善七)

此の發明は基礎盤上に滲透性瀝青乳劑と諸材木の鋸屑屑を交互に撒布し、其の各層毎に輾圧を加へて築造する方法であり、瀝青乳劑特有の柔みと木材の弾力性を利用してコートの硬性衝撃を除き、且つ冬期氷結による龜裂の虞をなからしむるを目的としたものである。

圖-4.



氣体の衝撃を利用せるコンクリート杭埋築装置

(特許第 126901 號 特許権者(發明者) 鈴木正男)

此の發明は 1 個の誘導管 (1) をピストンとして用ひ氣体を管内に確實有效に装入することを得べからしめると共に、氣體にピストン (4) の受ける急激なる衝撃を與へて彈性波動を生ぜしめ、之に依り生ずる氣撃作用に依り袋入コンクリート面を間歇的に急激に押圧して之を管外に排出しコンクリート杭体に部分的瘤を構成せしめるものである (圖-4)。

浄水装置

(特許第 126977 號 特許権者(發明者) 津田喜次郎)

此の發明は特許第 124671 號 (土木學會誌 24-7 本欄参照) の追加特許發明で、原特許發明は被浄化水を單に氣曝するのみの装置であるが、水質によつては氣曝のみでは充分目的を達し難い場合があるのを改良して、氣曝套 (4) の下に一段若しくは數段の酸化層容器 (6) を重設し之に重石大理石木炭骨炭コークス其他の酸化材料を收納し水質に依り是等酸化材料及酸化層を適宜取捨選擇するものとし、氣曝せられた原水は酸化層容器 (6)

を通過することに依りガス有機物細菌等を除去せられて後濾過槽(1)に入り固形不純物等を除去せられるやうにしたものである(図-5)。

地下道掘鑿方法

(特許第 125791 號
特許権者(發明者) 木田隆造)

此の發明は地表の使用を妨害することなく無振動無騒音的に地下道を掘鑿せんとするものであつて、その方法は先づ地中所定の深さに於ける地下道の兩側に沿ひ所要の配置に於て支柱(3)を設け各對の兩側支柱の上端を結ぶ部分を地表より掘り割り横梁(5)を架設して後、埋め戻して地面上を復舊し置き、次いで豫定地下道の1部に於て前記の支柱(3)及横梁(5)の外側に沿つて挿入した連結管(10)を其の先端(6)から射水を後端(7)からコンクリート噴出を行ひ乍ら地中に潜入前進せしめて地下道の周壁を構成すると共に之に平行して内部土砂の掘鑿を行ふのである(図-6, 7)。

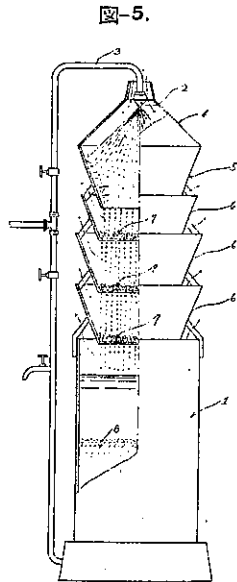


図-6.

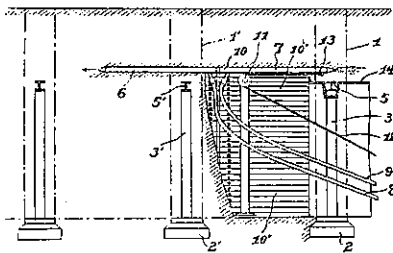
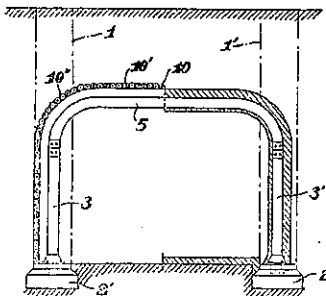


図-7.



循環用水に試錐孔内の切粉を捕收する藥液若しくは藥液氣泡を混和する試錐方法

(特許第 126790 號
特許権者(發明者) 自下部後太郎、佐伯龍吉)

此の發明は試錐孔内に生じた切粉を藥液若しくは藥液氣泡で捕收し、捕收切粉を循環用水をして試錐孔底から除去せしめ以てビットの穿孔力を増加し且つ錐杆を試錐孔内に切粉により膠着せられんとする故障を除去せんとするものであつて、切粉が例へば石英粉末なる時はウオターガラス又は其の氣泡を切粉が硫化礦物なる時は油若しくは油氣泡を循環水輸送管内に供給するのである。

運動場築造方法

(特許第 127015 號
特許権者(發明者) 立上啓一)

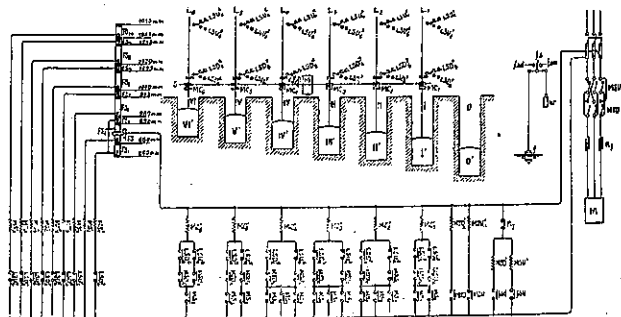
此の發明は、所要の土地を約1尺掘り下げ之を搗固めて其の上に適當厚さの石炭殘滓層を構成し其の上層に粒狀煉瓦粉マグネシヤセメントを適當量の鹽化マグネシヤの溶液を以て均一に混和練合せものを塗着し之を圧縮し、最上層に煉瓦粉と粘土との混和材を敷均して構成する運動場の築造方法であつて、上層の水分を速かに吸収して降雨後直ちに使用するを得て常に適當な濕氣を保たしめて塵埃の飛散を防止し得るを目的とするものである。

分水装置

(特許第 127050 號
發明者 木村勇 特許権者 明電舎)

此の發明は魚梯路の如き分水路の水嵩を本水路の水位の高低に關せず自動的に一定ならしめ得るやうに考案を施した分水装置である。即ち門口の高さを異にする若干の分水門と、その水門に屬する各門扉昇降装置と、分水路の水嵩と本水路の水位とに關聯応働して前記の門扉昇降装置を單獨に或は同時に選擇操作し本水路から分水路へ單位時間に分流する水量を一定ならしめる装置を備へたものである(図-8)。

図-8.

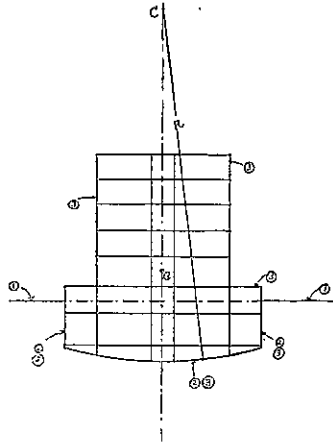


築造物基礎工法

(特許第 127092 號
特許権者 (發明者) 岡 隆一)

此の發明は、軟地盤上に築造物を構築するに當り其の築造物重量より稍大なる土砂量を掘盤排除し其の土砂の重量及容積の代りに其の位置に築造物下部を嵌合換置せしめて靜置し、接地部分を水密構造とし排除土砂の重量に相當する浮揚力により築造物を支持し、基

圖-9.



礎下地形工事を行はずして地盤の力学的平衡を変ぜず築造物を築造せんとするもので、尙築造物重心と基礎底球面曲率中心との位置關係により復原性を與へる方法である(圖-9)。

(附) 登録實用新案

- セメントモルタル噴射器 (第 257293 號 實用新案権者 大島長太郎 公告 13 年 5697 號)
- コンクリート柱の補強骨組 (第 257510 號 實用新案権者 ハイブリツヒ、フェルナンド、ヨハン、ノルツエ 公告 12 年 14577 號)
- 吊橋吊網取付金具 (第 257593 號 實用新案権者 瀧口藤藏 公告 13 年 8845 號)
- 不凍消火栓 (第 257777 號 實用新案権者 長田 新 公告 13 年 6139 號)
- 淨水装置 (第 257809 號 實用新案権者 田中末吉 公告 13 年 8002 號)
- 路面加熱機 (第 258066 號 實用新案権者 田中 整 公告 13 年 9294 號)
- 潜函用材料開装置 (第 258097 號 實用新案権者 佐藤英夫 公告 13 年 9385 號)